

学校通信
学力特集号

向学

北九州市立沖田中学校
校長： 瑞恵
H.30年10月10日

校訓

健康

心身ともに健康であれ

〈学校教育目標〉

～すべての子どもを我が子のように～

生徒一人ひとりが生き生きと輝き、心身ともに健康で、やさしさと逞しさと自立心を持ち、根気強くがんばる生徒の育成。

〈本年度の重点目標〉

「確かな学力」と「学校規律」の向上

平成30年度 全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成30年4月17日(火)に、3年生を対象として、「教科(国語, 数学, 理科)に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

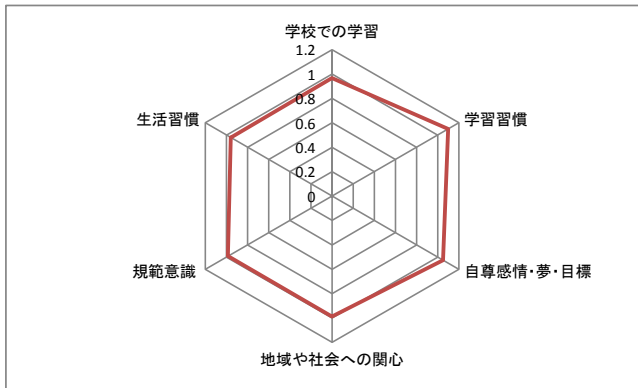
学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 教科に関する調査結果の概要

教科・区分	学力調査の分析(傾向や特徴)	全国平均正答率との比較
国語A	・全体的には全国平均正答率と同程度だったが、場面の展開や登場人物の描写に注意して読み、内容を理解することができていた。 ・目的に応じて文の成分の順序や照応、構成を考えて文を書く練習をする必要がある。	同程度である
国語B	・全体的には全国平均正答率を上回っており、特に話の展開に注意して聞き、必要に応じて質問を書くことができていたが、目的に応じて文章を読み、内容を整理して書くことを習慣化する必要がある。	上回っている
数学A	・全体的には全国平均正答率を上回っており、「数と式」「図形」「関数」「資料の活用」の全4領域で全国平均正答率を上回った。 ・数量の大小関係を不等式に表す練習を反復する必要がある。	上回っている
数学B	・全体的には全国平均正答率を下回っており、特に図形分野の平行四辺形の条件を変えた場合や、付加された条件の下で説明する問題の正答率が全国平均正答率よりも低かった。 ・今後は授業の中で、図形問題を筋道をたて、発展的に証明する力をつける必要がある。	下回っている
理科	・全体的には全国平均正答率を上回っており、特に「物理的領域」「化学的領域」の正答率が非常に高かった。疑問をもって科学的に探求する場面において、知識・技能を活用することができた。 ・地震の揺れの強さが震度であることの知識を身に付けてさせていきたい。	上回っている

2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
・「自分にはよいところがあると思う」「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う」「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う」「人の役に立つ人間になりたい」などの回答が全国平均を上回った。家族や先生から見守られている意識が高く、生活習慣の確立や規範意識の醸成についても学校と家庭が連携して効果をあげている。 ・家庭での自主学習について、教科書を使用して学習している割合は全国平均を上回った。特に3時間以上勉強している生徒の割合は、全国平均の2倍以上である。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

全学級で「めあて」「まとめ」「ふりかえり」を行うことはもちろん、学習形態が学習に及ぼす影響は、「講義を受ける」より「人に教える、説明する」ことであることの意識を高め、全学級全教科において、学級や班の中で話し合い活動を取り入れる。

② 家庭生活習慣等に関する取組

朝食を毎日食べる割合や、就寝時間と起床時間の関係など、安定した高い水準を維持している。学習面においては、生活学習ノートの活用を計画的に取り組むことで、家庭学習の時間を確実に確保する。今後は学校通信や保護者懇談会を通して、地域行事にも関心をさらに高めて、地域や社会をよくするために何をすべきかを考える取組をしていく。